

情報集め自分の理解を 静岡理工科大生300人に講座

「新聞を読む」の講義で、興味を持った記事などを黒板に書き込む学生ら。袋井市豊沢の静岡理工科大で



新聞は、情報収集の有効な手段だ」と指摘。就職試験の時事問題対策として活用できることも強調した。

学生らは十二日付の中日新聞を読み、政治、経済、社会の分野について関心を持った記事をそれぞれ選択。五、六人のグループに分かれて議論した。グループごとに関心のある記事の一つを選び、関心を持った理由などを発表した。

学生らは、今回の参院選で十八、十九歳の投票率が45・45%だったことや、永六輔さんの死去、英国の次期首相関連を報じる記事に関心を寄せていた。

(池田実)

「新聞を読む」の講義で、興味を持った記事などを黒板に書き込む学生ら。袋井市豊沢の静岡理工科大で

企業が人材開発教育などに詳しい山田穎二氏ら二人が講師を務めた。山田氏は「自分のことを理解するには、いろいろな情報が必要だ。情報の基盤をなす

聞が役立つことなどを学んだ。

袋井市豊沢の静岡理工科大のキャリア開発講座「新聞を読む」が十二日開かれ、二年生約三百人が、自分発見の手段の一つとして新

教育に新聞を

NIE